

平成30年度 1級建築施工管理技術検定実地試験 解答速報(解答例)

一般財団法人 地域開発研究所

【問題 1】

省略

【問題 2】

	災害の発生するおそれのある状況や作業の内容と災害を防止するための対策
1. 墜落・転落による災害	例① 作業時の開口部等からの墜落を防止するため、大きな開口部には手すりを設けるとともに安全ネットの設置を行う。
	例② 足場の作業床は、幅40cm以上、床材間のすき間は3cmとし、かつ、床材と建地とのすき間は12cm未満とする。
	例③ 階段、床開口部、踊り場等の墜落の危険がある箇所には、高さ85cm以上の丈夫な手すり、内法寸法が45cmを超えない中柵を設ける。
2. 電気による災害	例① 交流アーク溶接機の使用の際は、感電事故防止のため、湿気、ほこりの少ない場所に設置し、専用アース線又は躯体鉄筋等にアースを確実に設置する。
	例② 火災防止のため、使用電力に耐えられる配線を行うとともに、感電、漏電防止のためキャブタイヤケーブル等の損傷を受けにくいケーブルを使用する。
	例③ 感電事故の防止対策として、活線(高圧電線等)の近接作業時は、感電の危険性のある接近限界距離内に入らない。
3. 車両系建設機械による災害	例① 杭打ち機を軟弱な地盤に据え付ける際は、滑動、転倒等の危険を排除するため、地盤の強度を確認し、必要な地盤改良を行い、敷板、敷角等を使用する。
	例② 架空線又は充電電路に近接する場所で杭打ち機を使用する場合、感電の危険回避のため、充電電路の移設、絶縁防護具の装着等の措置を講ずる。
	例③ ガス導管、地中電線路、その他地下埋設物の損壊を回避するため、事前に地下埋設物調査を実施するとともに、走行経路には敷鉄板を敷設する。

※参考資料：労働安全衛生規則

：建築工事安全施工技術指針・同解説（一般社団法人 公共建築協会）

：建築工事監理指針(上)（一般社団法人 公共建築協会）

【問題 3】

	最も不適当な番号	適当な語句又は数値
1	①	1/5
2	③	盤ぶくれ
3	①	ケーシングチューブ
4	③	D25
5	①	加圧
6	③	近接させる
7	③	15
8	③	5

※参考資料：建築基礎設計のための地盤調査計画指針（一般社団法人 日本建築学会）

：建築工事標準仕様書 JASS 3,4,5,6（一般社団法人 日本建築学会）

：建築工事監理指針(上)（一般社団法人 公共建築協会）

：型枠の設計・施工指針（一般社団法人 日本建築学会）

【問題 4】

1	例① ルーフィングの継目は、幅方向、長手方向共に100mm以上重ね合わせるとともに、水下側のアスファルトルーフィング類が下側になるように重ね合わせる。
	例② アスファルトルーフィング類の上下層の継目は、同一箇所にならないようにする。
	例③ 張付けの際、空隙、気泡、しわ等が生じないように平均に押し均して、下層に密着するように行う。
2	例① ローラー塗りの場合、見本と同様の模様で均一に仕上がるように、所定のローラーを用いて塗り付ける。
	例② 基層塗りは、だれ、ピンホール、塗り残しが無いよう下地を覆うように均一に塗り付ける。
	例③ 防水型外装薄塗材の増塗りは、出隅、入隅、目地部、開口部回り等では、はけ又はローラーにより、端部に段差の無いように塗り付ける。
3	例① 固定金具は、1.3m程度の間隔でパラペット天端にあと施工アンカーで堅固に取り付ける。
	例② 固定金具は、笠木が通り良く、かつ、天端の水勾配が正しく保持されるよう、あらかじめレベルを調整して取り付ける。
	例③ ジョイント金具は、笠木のジョイント部での雨水に対する排水機構を有する溝形断面形状をもつものとする。

4	例① 張付けに先立ち、下地側に張付けモルタルを4～6mmの塗厚でむらなく平坦に塗り付ける。
	例② 張付けモルタルの1回の塗付け面積の限度は、2m ² 以下とし、かつ、60分以内に張り終える面積とする。
	例③ タイル張付け後、24時間以上経過した後、張付けモルタルの硬化を見計らって目地詰めを行う。

※参考資料：公共建築工事標準仕様書(建築工事編)（一般社団法人 公共建築協会）
：建築工事監理指針(下)（一般社団法人 公共建築協会）

【問題 5】

1	作業内容	ソフト幅木取付け
2	総所要日数	17日
	班数	1班
3	あ	A3
	い	18
	う	1

【問題 6】

1	請負契約	建設業法第20条第1項
2	経費	
3	2	建築基準法施行令第136条の2の20
4	低い	
5	工期	労働安全衛生法第3条第3項
6	条件	

お断り：

本解答速報は、当研究所が自らの理解に基づいて一つの解答例として作成したものです。筆記試験の性格上、複数の正解が存在するものと考えており、唯一の解答としてお示しするものではありません。また当然に、正解を保証するものではなく、本解答例と異なることで受験者の皆様のご解答を否定するものでもありません。

ご質問等については一切お答えしかねますので、ご了承ください。

詳細は、「平成31年度 1級建築施工管理技術検定実地試験問題解説集」(準備中)に掲載いたします。